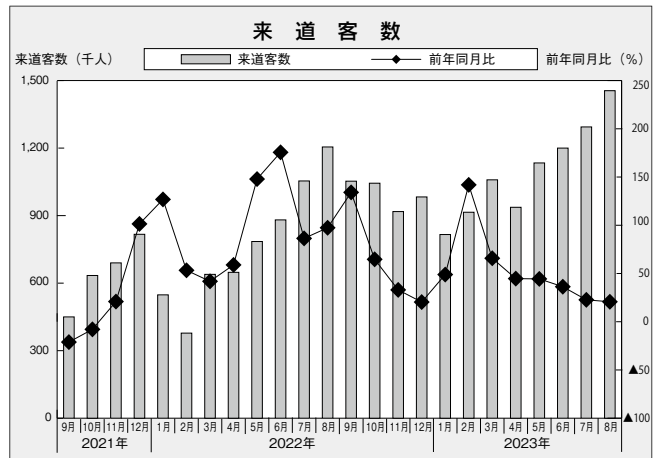
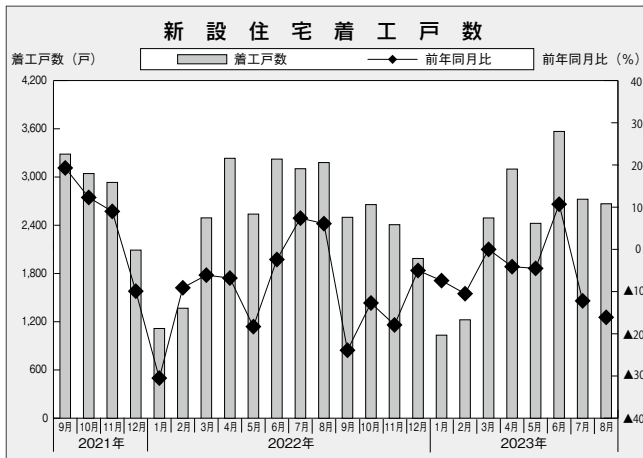
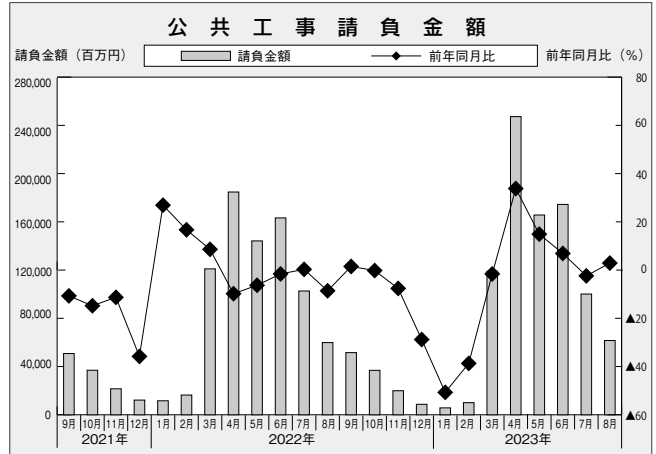
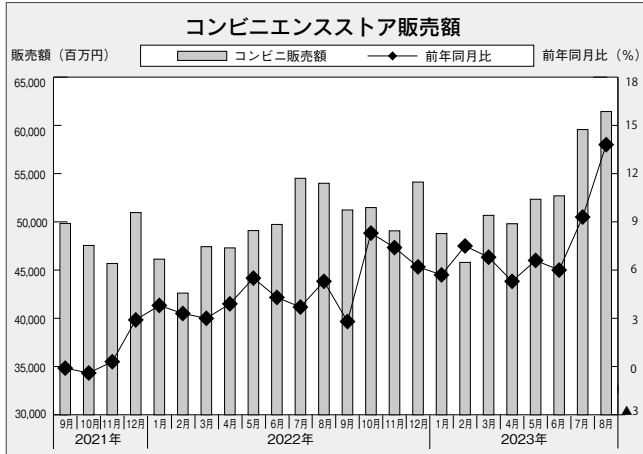


# 北海道の主要経済指標

出典：経済産業省 北海道経済産業局 管内経済概況 主要経済指標



北海道の主要経済指標	コンビニ販売額		公共工事請負額		新設住宅着工戸数		来道客数		
	販売額 (百万円)	前年同月比	請負額 (百万円)	前年同月比	着工戸数 (戸)	前年同月比	来道客数 (千人)	前年同月比	
2021年	9月	49,837	▲ 0.1	50,782	▲ 10.7	3,285	19.3	450	▲ 21.1
	10月	47,553	▲ 0.4	36,933	▲ 14.8	3,043	12.3	634	▲ 7.9
	11月	45,687	0.3	21,550	▲ 11.3	2,933	9.0	690	20.9
	12月	50,960	2.9	12,185	▲ 35.8	2,091	▲ 9.9	817	101.4
2022年	1月	46,133	3.8	11,609	26.9	1,116	▲ 30.5	548	126.8
	2月	42,612	3.3	16,366	16.7	1,368	▲ 9.1	378	53.3
	3月	47,424	3.0	121,013	8.6	2,492	▲ 6.1	639	41.9
	4月	47,300	3.9	184,734	▲ 9.8	3,233	▲ 6.8	648	58.9
	5月	49,093	5.5	144,186	▲ 6.3	2,539	▲ 18.3	785	147.9
	6月	49,732	4.3	163,257	▲ 1.6	3,223	▲ 2.4	881	175.6
	7月	54,511	3.7	102,650	0.3	3,103	7.4	1,054	86.4
	8月	53,998	5.3	59,855	▲ 8.6	3,180	6.1	1,205	97.4
	9月	51,231	2.8	51,534	1.5	2,499	▲ 23.9	1,053	134.1
	10月	51,478	8.3	36,857	▲ 0.2	2,657	▲ 12.7	1,044	64.7
	11月	49,069	7.4	19,921	▲ 7.6	2,407	▲ 17.9	918	33.0
	12月	54,122	6.2	8,682	▲ 28.8	1,987	▲ 5.0	983	20.4
2023年	1月	48,782	5.7	5,726	▲ 50.7	1,033	▲ 7.4	816	48.9
	2月	45,798	7.5	10,031	▲ 38.7	1,224	▲ 10.5	915	141.9
	3月	50,671	6.8	119,060	▲ 1.6	2,491	0.0	1,059	65.8
	4月	49,802	5.3	247,252	33.8	3,099	▲ 4.1	937	44.7
	5月	52,342	6.6	165,658	14.9	2,424	▲ 4.5	1,134	44.4
	6月	52,694	6.0	174,462	6.9	3,567	10.7	1,200	36.3
	7月	59,567	9.3	100,138	▲ 2.4	2,724	▲ 12.2	1,294	22.7
	8月	61,432	13.8	61,565	2.9	2,667	▲ 16.1	1,455	20.7

今号の特集は、信金中央金庫 地域・中小企業研究所発行の金利・為替見通し No.2023-7（2023年10月3日発行）より、国内経済・金融情勢について抜粋転載してご紹介いたします。

### 1. 国内景気は経済活動の正常化で回復も、根強い物価高や海外経済の減速が懸念

#### ◆4～6月の実質GDP（2次速報）は前期比1.2%増(年率4.8%増)に下方修正。内需が下振れ

4～6月の実質GDP(2次速報)は前期比1.2%増(年率4.8%増)となり、1次速報の同1.5%増(年率6.0%増)から下方修正された。設備投資が1次速報の横ばいから2次速報は同1.0%減に落ち込んだうえ、個人消費は同0.5%減から同0.6%減へマイナス幅が拡大した。また、公共投資は同1.2%増から同0.2%増にプラス幅が縮小している。寄与度は、民間需要が1次速報と比べて0.2ポイント、公的需要が0.1ポイント低下しており、実質GDP成長率は内需の下振れを反映した形で下方修正された。

足元の国内経済を景気動向指数からみると、8月の一致C Iは、輸出等が悪化したものの、耐久消費財出荷等が前月より改善したため、小幅な上昇が見込まれる。基調判断は「改善」に据え置かれよう。先行C Iは、消費者態度指数や中小企業売上げ見通し等が悪化した一方、新規求人数や在庫率等が改善したため、上昇すると予想する。ただ、先行き、根強い物価高、米欧の金融引締めや中国の景気悪化などの影響による海外経済の減速には留意を要する。

#### ◆企業の景況感は、製造業が2四半期連続で改善し、非製造業は約32年ぶりの高水準

8月の実質輸出は前月比6.1%減で3か月ぶりのマイナスとなった。半導体製造装置等の対中輸出規制の強化などが影響した中国向けなど、総じて低調であった。一方、鉱工業生産は、生産設備の定期修理が終了したガソリンを含む石油・石炭製品、自動車用照明等の電気・情報通信機械などが増加したものの、システムトラブルや台風等の影響を受けた自動車などが減少し、前月比横ばいとなった。基調判断は「一進一退」に据え置かれている。9月は、経済産業省による製造工業生産予測指数の補正值で同3.7%増と試算されている。先行き、供給制約の緩和に伴う自動車などの挽回生産が下支えすると見込まれるが、米欧の金融引締め、中国の景気減速や対中関係の悪化などの影響が生産活動の重荷になる恐れがある。

企業の景況感を日銀「短観」からみると、9月調査の大企業製造業の業況判断D Iは+9で前回より4ポイント改善した。供給制約の緩和で自動車、原材料高の一服で素材業種などの上昇が大きかった。大企業非製造業は+27で前回より4ポイント上昇した。インバウンド需要の拡大などで宿泊・飲食サービスや小売、燃料費の下落で電気・ガスなどが改善した。製造業は2四半期連続で上昇し、非製造業は約32年ぶりの高水準になるなど、景況感は回復している。ただ、大企業非製造業の先行きD Iは+21で6ポイントの低下が見込まれており、経済活動の再開に伴う改善効果が一服する恐れがある。

#### ◆23年度の設備投資計画は堅調だが、投資先送りの恐れも

4～6月の実質設備投資(GDP2次速報)は前期比1.0%減になり、1次速報の横ばいから下方修正された。前期の増加(同1.6%増)の反動の側面があるが、7月の国内向け資本財出荷(除く輸送機械)は4～6月平均を3.3%下回るなど、回復基調がやや一服している。

設備投資の先行指標である機械受注(船舶・電力を除く民需)、7月は前月比1.1%減で、基調判断は9カ月連続の「足踏みがみられる」となった。非製造業(除く船舶・電力)は同1.3%増加したが、製造業が同5.3%減少したことが響いた。3か月移動平均でも同2.1%減少しており、弱含んでいる。一方、日銀「短観」による23年度の設備投資計画(全規模・全産業)は前年度比13.0%増と高い伸び率を維持しており、6月調査(11.8%)を上回った。先行き、経済活動の正常化に伴う設備投資意欲の高まりや省力化・DX・環境投資などが下支えして堅調な推移が期待できる。ただ、IT関連需要低迷の長期化や海外の景気減速などを反映し、投資が先送りされる恐れがある。

#### ◆個人消費は緩やかに回復も、物価高騰による消費者マインドの改善一服が懸念

7月の1世帯当たりの実質消費支出(二人以上の世帯)は、前月比2.7%減少した。前年比は設備修繕・維持などが押し下げて5.0%減少しており、世帯でみると弱含んでいる。一方、日銀の実質消費活動指数(旅行収支調整済)は、前月比0.6%増加した。節約志向の高まりなどで支出が抑制されてきた非耐久財が同1.6%増と押し上げに寄与し、耐久財は同0.6%増で4か月連続のプラスになった。ただ、サービスは同0.3%減で足踏みしている。

8月は、小売業販売額が前月比0.1%増加した。価格上昇で燃料・飲食料品等の購入額が上振れしたうえ、猛暑や外出の増加などで盛夏商材・化粧品などが堅調だった。ただ、9月の消費者態度指数は2か月連続で低下した。基調判断は「改善に向けた動きに足踏みがみられる」に引き下げられており、消費者マインドの改善一服が懸念される。一方、8月の訪日外客数は216万人で、コロナ前(19年同月)の85.6%に回復した。8月に訪日団体旅行を解禁した中国は、同36.4%で前月の29.8%から上昇している。全国百貨店のインバウンド売上高は、円安も寄与して19年同月比24.1%増と好調である。

#### ◆先行き、個人消費が緩やかに回復するものの、海外経済の減速などの影響が懸念

国内景気は、物価高による消費者の生活防衛意識の強まりが懸念される一方、外出・移動の活発化、企業の業況改善による賃上げ機運の高まり、コロナ禍で積み上がった貯蓄やペントアップ(繰越)需要などが個人消費を下支えし、緩やかなペースながら回復基調で推移しよう。

また、生産活動は、供給制約の緩和による挽回生産が下支えして底堅い推移が見込まれる。ただ、米欧の金融引締めや中国の景気悪化などの影響による海外経済の減速が下振れリスクになろう。

## 2. 日銀は現状の金融緩和策を継続も、市場では政策修正観測が根強い

### ◆日銀は現状の金融緩和を継続も、市場では政策修正観測が根強い

日銀は、9月21～22日の金融政策決定会合で現状の金融緩和策の維持を決定した。長短金利操作(YCC：イールドカーブ・コントロール)について、短期政策金利は▲0.1%のマイナス金利を適用し、長期金利(10年物国債金利)はゼロ%程度で推移させる方針を据え置いた。YCCの運用も、長期金利の変動幅は「±0.5%程度」を目途としてより柔軟に対応し、上限1.0%を継続する。

植田日銀総裁は、9月9日のインタビュー記事で、賃金上昇を伴う持続的な物価上昇に確信が持てた段階になれば、マイナス金利政策の解除を含め「いろいろなオプションがある」、賃金と物価の好循環を見極めるのに「年末までに十分な情報やデータがそろそろ可能性はゼロではない」と述べ、市場で早期のマイナス金利解除観測が高まった。しかし、植田総裁は会合後の記者会見で、「政策修正時期の決め打ちは到底できない」と述べるなど早期の政策修正観測をけん制した。ただ、円安進行や物価の上振れなどを背景に、市場では早晩、日銀が金融政策の正常化に向けて政策修正に動くとの思惑は根強い。

### ◆8月の消費者物価(除く生鮮食品)の前年比上昇率は3.1%で前月と変わらず

8月の国内企業物価の前年比上昇率は3.2%で、前月の3.4%から減速した。上昇率は8か月連続で縮小している。前月比は0.3%上昇しており、事業用電力・都市ガス等は低下したが、価格激変緩和措置の補助金減額でガソリン・軽油等が押し下げている。また、輸入物価は前年比11.8%低下したが、円安が寄与してマイナス幅は縮小した。ただ、契約通貨ベースの前月比は0.9%低下しており、液化天然ガス・一般炭や鉄鉱石・アルミニウム地金等が押し下げた。

8月の消費者物価の前年比上昇率は、生鮮食品を除く総合で3.1%と17か月連続で2.0%を超えた。電気・ガスは下落幅が拡大したが、ガソリンの上昇率が加速し、伸び率は前月から横ばいとなった。生鮮食品・エネルギーを除く総合も4.3%で前月と変わらず高止まりしている。先行き、輸入物価の低下の効果が徐々に波及する一方、円安進行、原油価格の上昇や価格転嫁の動きなどを背景に、インフレ圧力は根強く、物価の上振れには留意を要する。

### ◆日銀は、当面、粘り強く金融緩和を継続へ

日銀は、賃金上昇を伴う形での持続的・安定的な物価上昇を目指している。7月の実質賃金は前年比2.7%減となり、下落率が前月の1.6%から拡大した。名目賃金は同1.1%増加したものの、前月の伸び率(2.3%)を下回る。安定的に推移する共通事業所の所定内給与(一般労働者)は、実質化すると同1.5%減でマイナス幅は縮小したが、購買力の低下が続いている。

GDPデフレーターが上昇し、需給ギャップも改善するなど、デフレ脱却の条件が整ってきたが、植田総裁は「物価目標の持続的・安定的な達成には距離がある」旨の発言をしている。内需は力強さを欠き、日銀は国内経済を下支えする必要があるため、当面、粘り強く金融緩和を継続するものと見込まれる。

以上

本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。したがって投資等についてはご自身の判断によること。また、本レポート掲載資料は、当研究所が信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。

なお、記述されている予測または執筆者の見解は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

# お取引先企業のご紹介コーナー

当金庫のお取引先企業様を紹介する「誌上ビジネスマッチング」のコーナーです。  
是非、皆様の**販路拡大**や**ビジネスのご連携**にお役立て下さい。  
お問合せは、当金庫または直接下記掲載企業様へご連絡下さい。

## プレイス動物病院

〒053-0046

苫小牧市住吉町1丁目8番9号

2023年10月から、苫小牧市住吉町で開業いたしました。

院長の所は市内の動物病院で19年間勤務していました。その経験を活かしながら地域のかかり付けの動物病院として、気軽に受診して頂ける病院を目指しています。

また、酪農大で10年間眼科の研究生として活動し、原著論文も執筆しています。眼科に関しては今後機械を導入し、より高度な診療が出来るよう力を入れていきます。



### <診療対象動物>

猫と小～中型犬の診療

【連絡先】 TEL : 0144-77-0014 FAX :  
E-mail : place.ah.r5@gmail.com  
院長 : 所 輝久 様

HP : <https://place-ah.amebaownd.com>

## 株式会社 灯泉房 自然喰処 灯泉房 (とうせんぼう)

〒054-0023

勇払郡むかわ町末広1丁目70番地2

地産地消に拘り、30年以上むかわ町産の食材を主体とした料理の提供を行っているレストランです。

名物はむかわ町で水揚げされた本ししゃものみを使用した「ししゃも寿司」や、出荷量の少ない町内産和牛「むかわ牛」を使用したステーキやハンバーグです。そのほかにも地元産食材を使った定食メニューも取り扱っており、夜営業時には道産の地酒等も楽しめます。

テイクアウトもできますので、町内にお越しの際は是非お立ち寄りください。



### <主要取扱商品>

- レストラン：町内産食材（本ししゃも、むかわ牛、レタス等の野菜）を主体とした料理
- テイクアウト：定食メニュー

【連絡先】 TEL : 0145-42-5417 FAX :



代表 : 木村 英雄 様

## 最近の管内のトピックス –新聞報道より–

### ※苦小牧市内23年度基準地価 2年連続の上昇 住宅 東部需要が全域押し上げ

道は20日、2023年度基準地価（7月1日時点）を発表し、苦小牧市内の平均変動率は住宅地が前年度比1.5%増、商業地が同1.8%増だった。いずれも2年連続の上昇で、増加幅も住宅地は1.4%、商業地は1.5%それぞれ拡大。道は「商業施設などが集積する東部地区で需要が堅調」と分析している。

調査地点は、住宅地が16地点、商業地が4地点、工業地が1地点の計21地点。1平方メートル当たりの平均価格は、住宅地が500円増の2万400円、商業地が600円増の3万5500円、工業地が600円増の1万4600円。全用途では、平均変動率が1.7%増、平均価格が500円増の2万3000円だった。

住宅地は、上昇が7地点、横ばいが8地点、下落が1地点。上昇は、去年は東部地区に限られたが、今年は東部2地区、中心部2地区、西部3地区。最高値は「三光町3の20」の4万2000円で5%増。上昇幅の最大は「明野新町1の17」の6.7%増で4万円。昨年引き続き東部地域の需要増が全体を押し上げ、中心部、西部地区の需要回復につながる構図だ。

商業地は、上昇が1地点、下落が3地点。前年から伸びたのは東部地区の「拓勇東町4の2」で、10.5%増の4万2000円となり、胆振管内の商業地としても唯一の上昇。最高値の「木場町1の10」は昨年と同様胆振管内トップだが、1.7%減の4万5000円。「表町4の2」は1%減の2万9800円で3万円を下回るなど、中心市街地は活性化がままならない現状を反映するように下落した。－後略－

（9月20日苦小牧民報社より－以下同じ）

### ※苦小牧工水を水源候補地に 鈴木知事が正式表明 ラピダス量産時送水設備を建設 27年完成目指す

千歳市の工業団地「千歳美々ワールド」に次世代半導体工場を建設中のラピダス（東京）が2027年の本格稼働時に使用する工業用水について、鈴木直道知事は4日、「有識者懇話会の検討結果も踏まえ、苦小牧工水（苦小牧地区工業用水道第2施設＝安平川が水源）を水源候補地として決定した」と正式に表明した。－中略－

知事は、自身が本部長を務める「北海道次世代半導体産業立地推進本部会議」を5日に開催し、「給水区域の関係機関への丁寧な説明はもとより、ラピダス社や千歳市、国などと具体的な協議を迅速に進めるよう庁内関係部局に必要な指示を行っていく」との方針を示した。

また、苦小牧工水の整備概要について「工場に水を供給する約22kmの送水管、送水ポンプ場の建設を想定し、事業費として170億円から200億円と試算している」と明かした。

工業用水の利用については、「従来は道企業局が送水管等を整備し、要した費用の全部をユーザーから分担金として徴収するか、ユーザー自らが負担の上で整備し、完成後に企業局へ無償譲渡している」と説明。道としては年内をめどに概算事業費などを精査し「ユーザーとなるラピダス社と協議を進めるとともに、国に対してあらゆる機会を捉えて財政支援を求めるなど、財源について必要な調整を行っていく」との姿勢を示した。－後略－

（10月5日）

### ※苦小牧に国内最大級DC 26年度稼働目指す 再エネを活用 ソフトバンク

通信大手のソフトバンク（東京）が苦小牧市に国内最大級のデータセンター（DC）を建設する方針であることが19日、分かった。建設費は400億～600億円を見込み、経済産業省に補助金を申請した。認められれば半額が助成される。2026年度の稼働を目指す。

同社は国内13カ所でDCを展開しており、東京や大阪など都市部に多く立地している。生成AI（人工知能）の急速な普及により、電力消費の集中が懸念されており、地方への分散を図る考えだ。

東京圏、大阪圏に8割以上が集中するDCに対して経産省も今年6月、大規模災害に備えるリスク分散の観点から、整備費用の補助地域に北海道と九州を挙げ、最大で費用の半額を補助する方針を示していた。同社はこれまで本道で考えられるDCについて、再生可能エネルギーを活用した「グリーンDC構想」、電力容量は世界最大級の300MWの想定と示してきた。再エネを活用した拠点となる見通しで、広大な土地がある苦小牧東部産業地域（苦東地域）の臨空柏原地区に建設する模様だ。

－後略－

（10月20日）



## とましん結婚相談所「LLB会」

とましん結婚相談所「LLB会」事務局

苫小牧市表町3丁目1番6号

苫小牧信用金庫本店7階

電話 0144-56-5026

【平日 9:00~17:30】

## お気軽に、お問い合わせください！



## ■活動実績

(令和5年9月30日現在)

入会者数	男性	375名
	女性	379名
	合計	754名

お見合回数 856回

結婚又は婚約中 68組

子供の誕生 19名

## ■会員資格

1. 苫小牧信用金庫の営業地域にお住まいの方
  2. 法的にも実生活上においても独身の方
  3. 結婚したいという明確な意思のある方
  4. 反社会的勢力でないこと
- ※ 会員の有効期間は入会日より3年間です  
(希望により延長も可能です)

## ■入会にあたりご提出いただくもの

1. 申込書類  
(当会所定の入会申込書、プロフィール、誓約書)
2. 戸籍謄本または独身証明書
3. 最終学歴の卒業証書(任意)
4. 収入証明書(源泉徴収票など)
5. 申込書貼付用顔写真1枚(縦横5cm程度)
6. お相手へのご紹介用写真2カット  
(L判サイズ、1枚は全身が写っているもの)
7. 入会預り金 10,000円  
(退会時には全額返却いたします)

## ■LLB会のシステム

1. 申込書に記載された「お相手の希望」に沿った方の「プロフィール及び写真」を見ていただけます。
2. お会いしてみたい方がいた場合、事務局よりお相手の方に連絡し了解がとれれば、お見合いをしていただけます。(お見合い会場は苫小牧信用金庫本店内)
3. お見合い後に、交際希望の有無を確認させていただきます。
4. 双方が交際を希望した場合、3か月の交際期間を設けます。交際期間の中で「結婚を前提に交際を継続」または「交際を辞退」の結論を出していただけます。

とましん景況レポート No.156

令和5年11月発行

発行/苫小牧信用金庫 編集/業務企画部

〒053-8654 苫小牧市表町3丁目1番6号

TEL(0144)31-2145 FAX(0144)31-2341

※本レポートは調査時点における情報提供を目的としています。  
したがって投資等についてはご自身の判断によってください。  
また、本レポート掲載資料は、当金庫が信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当金庫が正確性および完全性を保証するものではありません。